

小瀬川干潟

①カニ捕まえたよ②インタビューに答えてくれた律ちゃんと利沙ちゃん③協力して地引き網を引っぺがります④何かいるかな？⑤職員が生きものの探し方をレクチャー。



『小瀬川干潟観察会』が行われ、干潟の生きものを採集して観察しようと親子14組44人が参加しました。最初に、広島県環境保健協会の職員から、生きものの探し方や注意事項などの説明を受けました。子どもたちは早く干潟で探したいと待ちきれない様子。しつかり水分補給をして、タモ網、貝掘り、バケツを手にいざ出発。生きものが隠れていそうな場所に近づき、静かに狙いを定めてみたり、勢いよくタモ網を水面に振り下ろしてみたりと子どもたちはそれぞれ工夫して捕まえます。地引き網にも挑戦し、みんなで力を合わせて引っぺがり、かかった生きものを探そうと網を囲んでいました。採集後はリサイクルセンターに持ち帰り観察しました。

森下律くん(玖波小3年)は「砂の中の貝を見つけれれて楽しかった」と話し、妹の利沙ちゃん(4歳)は「カニが取れてうれしかった」と笑顔を見せてくれました。

イベントなどで撮影した写真は、「広報おたけ」、市ホームページ、市公式SNSや市の刊行物で使用するほか、マスメディアなどに提供することがあります。

8/23 SAT

暑さ忘れて生きものさがし

小瀬川河口・リサイクルセンター

小瀬川干潟

①カニ捕まえたよ②インタビューに答えてくれた律ちゃんと利沙ちゃん③協力して地引き網を引っぺがります④何かいるかな？⑤職員が生きものの探し方をレクチャー。



『小瀬川干潟観察会』が行われ、干潟の生きものを採集して観察しようと親子14組44人が参加しました。最初に、広島県環境保健協会の職員から、生きものの探し方や注意事項などの説明を受けました。子どもたちは早く干潟で探したいと待ちきれない様子。しつかり水分補給をして、タモ網、貝掘り、バケツを手にいざ出発。生きものが隠れていそうな場所に近づき、静かに狙いを定めてみたり、勢いよくタモ網を水面に振り下ろしてみたりと子どもたちはそれぞれ工夫して捕まえます。地引き網にも挑戦し、みんなで力を合わせて引っぺがり、かかった生きものを探そうと網を囲んでいました。採集後はリサイクルセンターに持ち帰り観察しました。

森下律くん(玖波小3年)は「砂の中の貝を見つけれれて楽しかった」と話し、妹の利沙ちゃん(4歳)は「カニが取れてうれしかった」と笑顔を見せてくれました。

イベントなどで撮影した写真は、「広報おたけ」、市ホームページ、市公式SNSや市の刊行物で使用するほか、マスメディアなどに提供することがあります。

8/23 SAT

暑さ忘れて生きものさがし

小瀬川河口・リサイクルセンター



8/20 WED 県境彩る夏の風物詩 小瀬川・本町

①クライマックス花火の供宴②でっかいハンマーを手にした家族連れ③チョコバナナにかぶりつく同級生トリオ④立ち並ぶ露店でにぎわう通り⑤和木町から来た姉妹⑥工場夜景を背景に上がる花火。



「ヒューン」「ドーン!」「バン!」「ジジジジ…」クライマックスを迎え、連続して打ち上げられる花火が夜空に華やかな大輪の花を咲かせると、小瀬川沿いを埋め尽くした観客からは、感嘆の声が上がります。

2年ぶりに開催された夏の風物詩『大竹・和木川まつり花火大会』は、県境を流れる小瀬川の川面に、色とりどりの光を映し出しました。

大和橋北交差点から元のJA本町支店までの間には露店が立ち並び、浴衣姿の友達同士や家族連れでにぎわっていました。

大竹小・中学校からの同級生3人組は、チョコバナナをほおぼりながら「後半の連続して打ちあがる花火は、やっぱりすごい迫力でした。さすが!」と絶賛。里帰りしてきた家族連れも「子どもは花火にちょっとびっくりしていた」と言いながらも、たっぷり楽しんでいました。

9/6 SAT

岩国大竹道路の現状をPR

ゆめタウン大竹

これは大竹市、岩国市、和木町が国土交通省、広島県の協力のもと実施したものです。事業の概要や進捗よく状況を説明したパネルや動画を展示した会場では、市内のみならず岩国市などから買いた。興味深げにパネルに見入っている人に職員が「和木町から岩国へのトンネルは、今年の3月時点で約1.7km掘り進んでいる」などの説明をしていました。本町から訪れた玉野成人さんは、「この道ができたら国道2号の流れがよくなるだろう」と慢性的な渋滞解消に期待を寄せていました。

事業予定地の近くに住む女性は「騒音や車の量が増える」との声を漏らしながらも、早期の完成を望んでいるようでした。



岩国大竹道路完成イメージ動画はこちらから。